

# 株式会社SUBARU 沿革

---

1917年～2020年

## 目次

- 1 前史 3
- 2 富士重工業株式会社 4
- 3 富士重工業株式会社から株式会社SUBARUへ 17

## 1 前史

## 中島飛行機時代

年	月日	主要事項
1917年 (大正6年)	5月 12月	中島知久平、群馬県尾島町に飛行機研究所を創設 飛行機研究所を群馬県太田町に移転
1918年	4月	中島飛行機製作所と改称
1919年	2月 4月 10月 12月	四型6号機(中島の出世機)試飛行大成功 陸軍から中島式五型複葉機20機初受注(初の日本人設計の量産機となる) 四型6号機、東京-大阪間第1回懸賞郵便飛行競技に出場、往復6時間58分で優勝 野球チーム「雄飛倶楽部」結成
1922年	3月	日本初の準金属製機、中島式B-6型「軽銀号」を上野の平和記念東京博覧会に出展、金牌受賞
1925年	11月	東京工場完成、発動機生産開始
1930年 (昭和5年)	6月	日本初の国産空冷星型9気筒「寿」型試作発動機完成
1931年	12月	中島飛行機株式会社と改称、資本金600万円 社長 中島 喜代一
1934年	11月 11月	太田新工場完成、旧太田工場は「呑竜工場」と改称 天皇陛下、太田工場ご訪問
1936年	9月	純国産中型高速旅客機AT-2型初飛行に成功
1937年	—	(海軍)九七式艦上攻撃機、 (陸軍)九七式戦闘機制式採用
1938年	4月 11月	武蔵野製作所開設、陸軍発動機生産開始 増資により資本金5,000万円となる
1939年	4月 —	中島知久平、政友会第8代総裁に就任 「栄」発動機制式採用
1940年	4月	小泉製作所開設、海軍機体生産開始
1941年	2月 11月 12月 —	太田飛行場開設 多摩製作所開設、海軍発動機専用工場となる 三鷹研究所起工式挙行 百式重爆撃機「呑竜」、一式戦闘機「隼」制式採用
1942年	6月 11月 —	半田製作所開設、海軍機体生産開始 中島知久平、6発爆撃機「Z機」の基礎計画を策定 (陸軍)二式戦闘機「鍾馗」、 (海軍)二式陸上偵察機、二式水上戦闘機制式採用
1943年	3月 4月 11月 —	大宮製作所開設、海軍発動機生産開始 三島製作所開設、海軍機器生産開始 武蔵野、多摩両製作所を統合し、武蔵製作所とし、陸海軍発動機生産を一元化 艦上攻撃機「天山」、夜間戦闘機「月光」制式採用
1944年	1月	宇都宮製作所開設、陸軍機体生産開始 艦上偵察機「彩雲」、四式戦闘機「疾風」、「誉」発動機制式採用、4発陸上攻撃機「連山」試作完成
1945年	4月 — 8月15日 17日	「航空機事業国営に関する件」が閣議決定され、中島飛行機は国家管理の「第一軍需工廠」となり、中島喜代一が長官に任命される 設立時の規模は、工場数102(疎開工場を含めると500)、敷地3,531万㎡、建物232.3万㎡、機械30,735台、人員25万名 (陸軍)キ87高々度戦闘機、特殊攻撃機「剣」、(海軍)特殊攻撃機「橘花」(ジェット機)試作完成 日本、無条件降伏(第2次世界大戦終結) 第一軍需工廠長官に対し、軍需大臣から生産停止命令下る

## 富士産業時代

年	月日	主要事項
1945年	8月17日 8月	中島飛行機(株)を富士産業株式会社と改称、定款を改定し平和産業への転換を図る 中島乙未平が取締役社長に就任
1946年	6月 6月 7月 12月 12月 —	ラビットスクーター1号車誕生 大宮工場、船外機エンジン生産開始 野村清臣が取締役社長に就任 宇都宮工場、戦災車両の復旧1号車完成 バス1号車完成 各工場は次の製品の製造許可を連合軍軍政部に申し出、許可される 太田工場(1月) 電機部品、小型モーター、電熱器 三鷹工場(1月) 占領軍の食器類、トラック部品 三鷹工場(3月) スクーター 三島工場(3月) 度量衡器、農機具、時計、小型発動機、バリカン 宇都宮工場(5月) 鉄道車両 浜松工場(6月) ミシン、タイプライター、計算機、乳母車 太田工場(7月) スクーター 半田工場(10月) 木造船、客車電車修理 前橋工場(11月) 農機具、トラクター、農耕機 小泉工場(12月) バスポディ
1948年	7月	東京富士産業(株)を設立
1949年	8月 10月29日	国産初のフレームレス・リヤエンジンバス「ふじ号」完成 中島知久平死去
1950年	—	企業再建整備法による第二会社12社が7、8月から発足 富士工業(株)、富士精密工業(株)、愛知富士産業(株)、富士自動車工業(株)、大宮富士工業(株)、宇都宮車輜(株)、岩手富士産業(株)、富士機械工業(株)、富士機器(株)、田沼木材工業(株)、(株)富田機器製作所、東京富士産業(株)

## 企業再建整備法による第二会社時代

年	月日	主要事項
1950年	7月12日 13日 20日 8月7日 12月	富士自動車工業(株)設立 富士工業(株)設立 宇都宮車輜(株)設立 大宮富士工業(株)設立 バスポディ、生産1,000台突破
1951年	2月 7月	汎用エンジンM6型生産開始 国鉄木製車の鋼体化生産に着手、この年50両納入(以後1955年までに302両納入)
1952年	5月	ラビット消防ポンプ生産開始
1953年	4月 4月 8月 11月	スクーター、月産2,000台達成 軽三輪貨物車ダイナスター発売 宇都宮公共飛行場の業務開始 メンターT-34初等練習機の輸入機組立開始
1954年	2月 8月 —	四輪乗用車P-1(1,500cc、45馬力)の試作完成、1955年に「すばる」と命名 戦後初のジェットエンジンJO-1完成 P-1用エンジンL4試作完成

## 2 富士重工業株式会社

企…企業関連  
自…自動車部門  
航…航空宇宙カンパニー

産…産業機器カンパニー  
エ…エコテクノロジーカンパニー  
ラ…ラビット(スクーター)

バ…バス事業部  
ハ…ハウス事業部  
車…車両事業部

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
企: 富士重工業株式会社設立、資本金5,000万円、代表取締役社長、北謙治 本社、東京都新宿区角筈二丁目73番地	1953年 (昭和28年) 7月15日  9月  11月	航: 米・ビーチエアクラフト社とB-45(メンターT-34)初等訓練機に関し、技術援助契約調印 航: メンターT-34初等練習機の輸入機組立開始
企: 社内募集により社章制定 企: 本社、千代田区丸の内二丁目18番地、内外ビルに移転	1954年 (昭和29年) 4月 5月	
企: 資本出資5社を吸収合併し、資本金8億3,050万円となる  企: 国鉄から気動車メーカーとして正式指定を受ける	1955年 (昭和30年) 2月 4月 6月 7月 10月	バ: チリ国営交通営団から大型ディーゼルバス300台受注 航: 米・セスナ社とL-19連絡機に関し技術援助契約調印 ラ: ラビットジュニア(125cc)発売 航: メンターT-34練習機国産1号機初飛行に成功 車: 軌道モーターカーTMC100A形生産開始
企: 吉田孝雄専務取締役が代表取締役社長に就任	1956年 (昭和31年) 5月 6月 7月 8月	産: ロビンエンジンKD11型発表 ラ: トルコン付ラビットスーパーフロー量産開始 バ: 日本初のエアサスペンションバス完成、国鉄に納入 航: 防衛庁のジェット中間練習機(T-1)試作受注開始
	1957年 (昭和32年) 9月	ラ: ラビットスーパーフロー(250cc)発売
自: 軽四輪乗用車スバル360発表(5月1日発売、価格42万5,000円) 自: 全国スバル自動車販売協会発足	1958年 (昭和33年) 1月 3月3日 12月	航: T1F2ジェット中間練習機、国産試作1号機初飛行に成功
企: 倍額増資により資本金16億6,100万円となる	1959年 (昭和34年) 2月 10月 12月	産: ロビンエンジンEC51A型、KB11型発売 航: KM機、世界高度新記録(9,917m)樹立
企: 株式、東京証券取引所に上場  企: 富士商工櫛を合併、資本金18億8,600万円となる 自: 群馬製作所本工場開設	1960年 (昭和35年) 2月 3月 6月 7月 9月 10月	産: ロビントラクターT4型発売 航: 米・ベル社とHU-1B/204Bヘリコプター生産に関する技術援助契約調印 バ: ワンマンバス開発 車: ディーゼル特急「はつかり」(キハ80形)1号車完成
自: スバルサンバートラック発売 企: 増資により資本金33億円となる	1961年 (昭和36年) 2月 4月 5月 11月	産: ロビンエンジンEY21型生産開始 航: 当社が尾翼と主翼桁の分担生産をしたYS-11中型輸送機試作完成
企: 増資により資本金49億5,000万円となる	1962年 (昭和37年) 3月 12月	エ: 米・ガーウッド社と技術提携のロードパッカー(LP-101)完成

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
企：横田信夫(元日本電信電話公社副総裁)が代表取締役社長就任 自：スバル月産5,000台達成 企：創立10周年を記念し、社旗制定 自：スバル360カスタム発売 企：社内募集により社歌制定(増田祐三作詩、團伊玖磨作曲)	1963年 (昭和38年) 5月 7月 8月 10月 12月	航：富士ベルHU-1Bタービンヘリコプター完成、防衛庁に納入 車：日本通運(株)向、高速道路用セミトレーラ完成
自：第2回グランプリレースのT-1クラスで、スバル360が1位、2位独占 企：米・テナント社と共同出資の関係会社、富士テナント(株)発足 自：群馬製作所のテストコース完成	1964年 (昭和39年) 5月 8月 10月 11月	エ：スーパーT42型発売 車：西独・カールケスボーラー社とトレーラーの技術提携調印 車：日本初の25t積カーボンブラック専用ホッパー貨車生産
企：製品別事業部制採用(自動車事業部、機械事業部、車両バス事業部、航空機事業部) 自：小型乗用車スバル1000発表 自：スバル、月販1万台突破	1965年 (昭和40年) 2月 4月 8月 10月 12月	車：日本初の国鉄向特殊気動車(電気作業車)完成 エ：テナントスーパーのノックダウン開始 航：戦後初の国産軽飛行機FA-200、試験飛行成功
企：株式額面500円を50円に変更 企：本社、新宿区角筈(現：西新宿)に移転 企：株式、東京、大阪、名古屋証券取引所に上場 自：スバル1000 4ドアセダン発売 企：倍額増資と1億円の公募により資本金100億円となる 企：いすゞ自動車(株)と業務提携調印	1966年 (昭和41年) 1月 3月 5月14日 9月 10月 12月	航：FA-200の愛称「エアロスバル」に決定
自：スバル1000の保証期間延長、2年間または5万kmとなる 企：社債30億円を募集 企：スバル360、台湾へのKD輸出開始 自：スバル1000スポーツ発売 企：当社、(株)小松製作所、富士ロビン(株)が業務提携、富士ロビン(株)は富士小松ロビン(株)と改称	1967年 (昭和42年) 3月 8月 10月 11月 12月	航：VTOL垂直離着陸実験機FTB完成、航空宇宙技術研究所に納入
企：SOA (スバル オブ アメリカ)設立 企：当社、三井物産(株)、三井造船(株)が米・ストリック社とコンテナに関し、技術提携(1967年6月)後、合併販社日本ストリック(株)設立 企：いすゞ自動車(株)との業務提携解消 自：第10回日本アルペンラリーでスバル1000スポーツがクラス優勝 企：日産自動車(株)と業務提携調印 自：スバル360ヤングS、同SS発売	1968年 (昭和43年) 2月 5月 6月 6月29日 7月 9月 10月 11月 12月	産：ロビンエンジンEY18型発表 ラ：ラビットスクーター生産打ち、太田北工場で最終車ラインオフ 車：20フィートアルミ製海上コンテナ量産開始 産：スノーモビル用ロビンエンジン、米・ボラリス社に輸出開始 エ：モートラックE103型発売(丸ハンドル車)

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
自：矢島工場稼働開始 自：スバルFF-1シリーズ発売 自：スバルFF-1、米国向輸出開始 自：スバルR-2発売 企：日本初の集中自動管理無人化高層倉庫方式のスバル部品センター完成  企：日産サニークーペの受託生産開始	1969年 (昭和44年) 1月 2月 3月 7月 8月 10月 11月 12月	バ：国鉄東名ハイウェイバス1号車納入  車：15tバン型セミトレーラ、14tアオリ式セミトレーラ開発、発表  航：米・ライオン社と高速無人標的機BQM-34A(ファイアービー)に関し技術援助契約調印
企：横田信夫社長が取締役会長、大原栄一副社長が代表取締役社長に就任 自：スバルFF-1 1300Gおよび1100シリーズ発売 自：第12回日本アルペンラリーで初出場のスバルFF-1 1300Gがクラス優勝 自：軽自動車、生産100万台達成 企：車両バス事業部を分離し、車両事業部とバス事業部新設	1970年 (昭和45年) 2月 5月 7月 9月 10月	産：ロビンエンジン生産累計100万台突破 航：FA-200エアロスバル、西独に初輸出(2機)  ハ：オフィストレーラ完成 航：XMH型固定翼タービンヘリコプター試験機完成
自：スバルレオーネクーペ発売 自：スバル1300G 4WDバン第18回東京モーターショーに出品	1971年 (昭和46年) 1月 7月 10月	ハ：ユニットハウス完成(3月発売) 産：米・ウィスコンシン社とロビンエンジンの輸出契約締結 ハ：オフィストレーラTR-1発売
自：レオーネ4ドアセダン発売 企：大卒女子採用開始 自：レックス発売  自：レオーネ4WDエステートバン発売 企：富士重工関連労働組合連合会(富士労連)結成	1972年 (昭和47年) 2月 4月 7月 9月 10月	航：ベル社と204B-2(HU-1H)タービンヘリコプターに関し、技術援助契約調印 工：世界最大の産業用清掃車テナントスイーパー(T86E)の国産化完成 産：ロビンエンジンKD型発売以来、205万台、1,000万馬力達成
自：レオーネハードトップ発売  企：転換社債45億円発行 自：レックス4サイクル車発売	1973年 (昭和48年) 4月 6月 7月 9月 10月 12月	工：塵芥収集車フジマイティ専用工場完成  航：HU-1H多用途ヘリコプター1号機初飛行成功  航：ボーイング747SPラダー、100機分受注
自：レオーネ排出ガス対策車、触媒なしで米・環境保護庁'75年排出ガス公式認定試験合格 自：第16回日本アルペンラリーでレオーネRX総合優勝	1974年 (昭和49年) 3月 6月 7月 9月 10月	車：東海道新幹線の架線張替用専用作業車開発 航：米・ロックウェル社と双発ビジネス機の生産・販売に関する共同事業契約調印  航：KM-2B(T-3)単発ピストン初等練習機完成

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
企: 50年度排出ガス規制に対応するSEEC-Tシステム発表 自: レオーネ4WDセダンおよびAT車発売 自: スバル、生産200万台達成  企: 「母と子の夏休み乗り物教室」を群馬製作所と大泉飛行場で開催(以降毎年開催) 自: 51年度排出ガス規制適合車レオーネSEEC-T発売  自: 軽初の51年度排出ガス規制適合車、レックスSEEC-T発売	1975年 (昭和50年) 1月  3月 5月  7月  10月 11月 12月	産: ロビンジェネレーターRGシリーズ輸出開始 ハ: 連棟式ユニットハウス発売 車: 新交通システムKRT、沖縄国際海洋博覧会に納入、実用化に成功  航: ロックウェル社と共同開発のFA-300、初飛行に成功
企: 当社、SOA(スバル オブ アメリカ)の筆頭株主となる 自: 軽枠拡大車スバルレックス5、スバルサンバー5発売 企: 男子(管理職を除く)の定年を60才に延長 企: 初の外貨建て社債3,000万ドイツマルク(約36億円)発行	1976年 (昭和51年) 1月  3月 5月  9月 11月	バ: 特殊バス(採血車、レントゲン車、婦人検診車、移動販売車)の一貫生産開始 エ: センターレス方式の粗大ゴミ収集車、LP650発売
自: 新型レオーネ、53年度排出ガス規制適合車、業界に先駆けて発売 自: レックス550(53年度排出ガス規制適合車)、サンバー550発売  企: 2,000万株の時価発行 自: SOA、スバルプラット発売	1977年 (昭和52年) 4月 5月  9月 10月 11月	航: FA-300(700型)、運輸省航空局型式証明取得(9月には米連邦航空局の型式証明取得)  バ: タイ・サイアムモーターズ社とKDバス組立技術援助契約締結
自: スバル小型エンジン、生産累計100万台達成  企: 大原栄一社長が代表取締役会長、佐々木定道取締役(当時日産自動車(株)副社長)が代表取締役社長に就任	1978年 (昭和53年) 2月  5月 9月 10月 11月	車: 自動昇降式ピッチャーマウンド、1,200ℓ吸水車、265型スニーカーなど横浜スタジアムに納入  航: ボーイング社と767、777(YX)の事業契約(当社分担は主翼フェアリングおよび主脚ドア)  エ: 全油圧方式産業用清掃機、スニーカー266型国産化完成
自: ザ・ニューレオーネセダン発売 自: ザ・ニューレオーネハードトップ発売 自: 軽キャブバン初のサンバーハイルーフ発売(55年排ガス適合車)  企: 外貨建て転換社債6,000万スイスフラン(約90億円)発行	1979年 (昭和54年) 3月 4月 6月 7月 10月 11月 12月	車: 後楽園球場の投手交代用リリーフカーにモトトラック登場 航: AH-1S対戦車ヘリコプター、KD1号機納入 産: 女子のみによる小型4サイクル・ロビンエンジン組立ライン稼働  車: 北海道向特急気動車「おおぞら」(キハ183形)納入 航: ロックウェル社とのFA-300双発ビジネス機共同開発契約解除 航: RPV無人偵察機研究受注契約調印
自: レオーネ、第28回サファリラリー初出場でクラス優勝 自: サンバー4WD発売	1980年 (昭和55年) 4月 11月 12月	車: 成田空港ジャンボ機用給油専用車納入
自: レオーネ4WDツーリングワゴン発売 自: FFレックスコンビ発売  自: FFレックスセダン発売  自: レオーネ4WD・AT車発売(世界初のMP-T方式) 企: 第8回社会人野球日本選手権大会で優勝	1981年 (昭和56年) 2月 5月 7月 9月 10月 11月 12月	産: ロビンエンジンEY15型、EY20型発売 産: ロビンジェネレーターLGシリーズ発売  航: MTX次期中等ジェット練習機の開発、主契約者に川崎重工業(株)、開発協力者に三菱重工業(株)、当社が決定 車: ステンレス電車9000型、東武鉄道(株)に納入 バ: 日本初の3軸大型観光バス開発、モーターショーに出展

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
自: オランダ・VDT社とCVT(無段変速機)に関する共同開発契約調印 企: 無担保転換社債100億円発行  自: 業界で初めて通販会社ディノスと提携 自: 新型サンバートライ、ハイトラシリーズ発売 自: レオーネ4WDターボAT、4WD・RXシリーズ発売 自: レオーネ、生産累計100万台達成式典挙行 自: 日産自動車(株)受託車、生産100万台達成式典挙行	1982年 (昭和57年) 2月 4月 5月  7月 8月 9月 10月  12月	車: LE-Car発売 バ: バスポディ、キュービック化のフルモデルチェンジ実施 航: AH-1S対戦車ヘリコプターへの主契約者に決定、ベル社とAH-1Sに関し技術援助契約調印 バ: バスポディ、生産累計5万台達成
企: 3,000万株の時価発行 自: 大泉工場開設、本格稼働 自: 第31回サファリラリーでレオーネ4WDがグループA優勝、初の総合5位入賞  自: スバル、生産500万台達成 自: ドミンゴ発売	1983年 (昭和58年) 2月  3月  5月 7月 8月 10月  11月	バ: 科学万博つくば'85の観客輸送用連節バス受注(100台) 航: 防衛庁向無人標的機ターゲット・ドローンの開発担当会社に決定  バ: 日本初の2階建てバス試作完成、モーターショーに出展(日産ディーゼル工業(株)と共同開発) 車: 第三セクター、三陸鉄道(株)向気動車、7両納入
自: スバルECVT(世界初の電子制御電磁クラッチ式無段変速機)開発発表 自: スバルジャスティ発売    自: オールニューレオーネ発売	1984年 (昭和59年) 2月  3月  5月 6月  7月 8月 12月	航: 当社、三菱重工業(株)、川崎重工業(株)の3社、ボーイング社とYXXの国際共同開発に関し、了解覚書締結 バ: 連節バス1号車完成、公開 航: 当社開発のKM2D型ターボプロップ機、初飛行に成功 航: オランダ・フォッカー社と民間旅客機、フォッカー50の尾翼の一部の製造契約締結  車: LE-Carを名古屋鉄道(株)と樽見鉄道(株)に納入 航: AH-1S国産1号機納入
自: スペシャルティカー、スバルXT、米国で発売  企: 大原栄一会長が名誉会長、佐々木定道社長が代表取締役会長、田島敏弘副社長が代表取締役社長に就任 自: アルシオーネ発売 企: 5,000万米ドル(約119億円)の転換社債発行 自: スバルデザインセンター完成 自: ジャスティ1.2ℓ 4WDシリーズ発売 自: レオーネ3ドアクーペ発売	1985年 (昭和60年) 2月 3月 6月  7月  10月 11月	バ: 連節バス100台が、つくば'85で活躍   産: ロビンエンジン累計生産1,000万台達成
自: スバルの輸出基地「東扇島物流センター」(神奈川県川崎市)が完成 自: レオーネ3ドアクーペRX／II(フルタイム4WD)発売 企: いすゞ自動車(株)と、合併による米国現地生産の基本協定に調印 自: ドミンゴ1.2ℓ 4WD発売  企: 日産自動車(株)の受託生産車最終号引渡式を挙行 自: 日本初のワンボックス・フルタイム4WD、スバルドミンゴGX発売 企: 米国に、「スバル・リサーチ・アンド・デザイン社」を設立 企: 富士重工研修センターを東京都八王子市に新設 自: レオーネシリーズを改良 同時にセンターデフ式フルタイム4WDのレオーネセダン、ツーリングワゴンを追加発売 企: 台湾に台湾偉士伯との合弁会社「大慶汽車工業股份有限公司」設立 自: 新レックスコンピ発売 自: 新レックスセダン発売	1986年 (昭和61年) 2月 4月  5月 6月 7月 8月 9月 10月  11月  12月	航: FA-200エアロスバル300号達成記念式典挙行     産: ロビンエンジン、米国芝刈機市場に本格進出 ハ: 完全折りたたみ式コンテナハウス“伸び太郎”発売  産: スバル除雪機「とおりゃんせ」発売  ハ: 拡張型折りたたみハウス“ミスターワイド”発売

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
	1987年 (昭和62年)	
自: 世界初の電子制御・無段変速システム搭載ジャスティECVT発売	2月	航: ボーイング747のエルロン、スポイラー初号機完成
自: レックス5ドアセダンツインビスコフルタイム4WD発売	3月	車: 国鉄向け最後の新型気動車6形式77両の納入完了
企: 米国に「SUBARU-ISUZU AUTOMOTIVE INC.」設立(略称:SIA)	5月	車: 車軸伸縮式カートレーラ開発
自: スバル研究実験センター起工式举行	6月	パ: ボルボ社と新型観光バス共同生産決定
	7月	航: 米・マクダネルダグラス社からMD-11用アウトボードエルロン受注
自: レックスECVT発売 アルシオーネVX(2.7L、電子制御フルタイム4WD)発売	8月	産: ロビンエンジンに空冷ディーゼル2機種追加発売
企: 米国パデュー大学に「いすゞ自動車」(株)とSIA奨学基金設立	9月	
自: 新型電子制御電動モーター式パワーステアリングシステム実用化に成功	10月	パ: スウェーデン、ボルボ社と共同開発の新型観光バス「アステローペ」発売
企: 個人輸入代行会社スバルワールドトレーディング(株)設立	11月	ハ: 事務所タイプ組立式ハウス「フジミニハウスCF」シリーズ発売
自: サンバーシリーズを改良、フルタイム4WDを展開	12月	航: 無人ジェット標的機「ターゲット・ドローン」の量産担当社に決定
自: レオーネシリーズを改良、アクティブ・トルク・スプリット4WDを展開		車: JR北海道旅客鉄道(株)と設計・製作協力したデラックスリゾート特急車両「トマム・サホロエクスプレス」完成
自: ジャスコ(株)と軽自動車の販売提携		
	1988年 (昭和63年)	
自: イタリア、モトーリ・モデルニ社との水平対向12気筒エンジンの共同開発発表	1月	
企: 愛知県半田市に工場用地取得	2月	産: スバル小型ディーゼル発電機「防音タイプ」発売
自: ドミンゴシリーズを改良、1.2L 4WD全車種にフリーランニング式フルタイム4WD展開	3月	産: 韓国、大興機械工業(株)と汎用エンジン加工設備の輸出契約締結
自: レックスシリーズにスーパーチャージャー搭載「V」「VX」発売	4月	車: 宮福鉄道(株)にLE-Car6両納入、納入総数100両を突破(総計101両)
企: 中古車販売会社スバル中古車販売(株)設立	5月	エ: シェラトン・グランデ・トーキョー・ベイホテルに、ごみ収集輸送装置納入
自: フリーダイヤルスバルホットライン開設(0120-052215)	6月	航: KM-2改型練習機初飛行に成功
	8月	航: 海上保安庁にベル式212型新製機JA9684 1機納入
企: スウェーデン・ボルボ社とボルボ車の国内販売提携	9月	車: JR北海道旅客鉄道(株)に碍子洗浄車1両納入
	12月	航: 双発ビジネス機「FA-300」1機を(財)航空科学振興財団に寄贈
		航: KM-2改納入式開催
		ハ: ユニットハウス「CAK-J型」発売
	1989年 (昭和64年)	
企: R&D会社「(株)スバル研究所」設立	1月 (平成元年)	
自: 「スバルECVTシステム」イタリア・フィアット社に供給開始	1月	航: ボーイング757旅客機用外方フラップを受注
自: レガシィ、米国アリゾナ州で「10万km連続走行・世界速度記録」に挑戦、新記録=平均速度 223.345km/hを樹立	2月	車: JR四国に世界初の「振り式特急ディーゼルカー」3両納入
自: レガシィシリーズ発売	3月	
自: レガシィの「10万km連続走行・世界速度記録」FIA(国際自動車連盟)公認記録に認定	4月	
自: ジャスティECVTシリーズ米国での販売開始	5月	車: LE-Carの営業キロ総延長500km突破
自: 三鷹製作所と群馬製作所を統合	6月	航: KM-2改の機体呼称をT-5へ改称
自: 自動車デザインの研究開発拠点「デザイン東京スタジオ」完成	7月	
自: レガシィシリーズ米国での販売開始	9月	車: 東京・大田市場に「モートラック」「サンラック」「スバルサンパートラック」など計122台納入
自: 台湾現地生産拠点「大慶汽車工業股份有限公司」生産開始	10月	産: インドネシアダイナミカ社と汎用エンジンに関する技術援助契約締結
	11月	航: 航空機用新素材、複合材構造等の研究開発施設「技術研究棟」完成
自: レックスシリーズを改良、新開発の直列4気筒エンジン「クローバー4」を搭載	12月	
企: 現地販売会社「スバル カナダ インク」設立		車: JR北海道旅客鉄道(株)、東日本旅客鉄道(株)両社にブルートレイン「北斗星」13両納入
自: 世界初、多層構造樹脂製燃料タンクの量産化に成功		
自: 90年WRC(世界ラリー選手権)にレガシィで参戦を表明		
自: レガシィシリーズの欧州での販売開始		
自: SIAで生産開始		
自: 中部地区において新車の保管・整備を行う「中部配車センター」(岐阜県土岐市)完成		車: JR東海に納入した特急ディーゼルカー「キハ85系」通産省選定「Gマーク商品」に選ばれる
自: 先行技術開発拠点「スバル研究実験センター」に高速周回路が完成		航: 205Bヘリコプターの型式証明を米連邦航空局より取得
自: レガシィ「RStype RA」発売		

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
	1990年 (平成2年)	
自:「スバルテクニカルセンター大阪」を開設	3月	エ:塵芥収集車「フジマイティ」生産累計3万台突破
自:軽自動車の550ccから660ccへの規格改定に伴い、サンバーシリーズをフルモデルチェンジ、レックスシリーズを改良		車:北近畿タンゴ鉄道㈱にパノラマ特急車両「タンゴ・エクスプローラー」3両、軽快気動車4両納入
自:水平対向12気筒スバル-M.Mエンジンをイタリアのコローニチームに供給、アメリカン・グランプリでF-1デビュー		
自:SIA製レガシィを台湾に出荷販売開始	4月	
自:第38回サファリラリーでレガシィRS4WD、WRCデビュー、同ラリー史上初のグループN優勝(総合8位)、総合6位入賞		
自:レガシィ4ドアセダンをいすゞ自動車㈱にOEM供給開始	5月	
企:田島敏弘社長が代表取締役会長、川合勇(元日産ディーゼル工業㈱社長)が代表取締役社長就任	6月	航:205Bヘリコプターの国内耐空証明を運輸省航空局より取得
		バ:ハイデッカボディMAXION発売
自:スバルコローニレーシングsr.1ヘスバル-M.Mエンジンの供給停止	7月	
自:全国スバル特約店にカーエアコン用フロンガス回収、再利用装置の設備開始	8月	エ:塵芥収集車「フジマイティ」新型(8型)発売
企:米国販売力強化の一環として現地販売会社「スバル オブ アメリカ」(略称:SOA)を100%子会社化		
	11月	車:振子式特急ディーゼルカー量産35両完納
	1991年 (平成3年)	
自:日産パルサーの受託生産を決定(5月、生産開始)	1月	
	2月	航:仏・アエロスパシアル社よりカーボン・カーボン技術を導入
自:「スバルテクニカルセンター仙台」を開設	5月	航:ボーイング777大型旅客機共同開発調印
自:「スバルECVT」生産累計30万台達成	6月	バ:大型観光バス「アステローベ・スベリオール」を発売開始(排ガスN3規制クリア)
企:SOAの販売金融子会社「スバル アクセプタンス コーポレーション(略称SAC)」業務開始	7月	
自:レガシィ月販新記録達成、初めて全国1万台を突破(10,557台)		
自:3ナンバー・スペシャルティクーペ「アルシオーネSVX」発売	9月	
	10月	産:ロビン・ハイブリッドシステムを開発
		エ:自律走行方式の電動床面清掃ロボットを開発
企:㈱FODに大宮製作所用地の一部を売却	11月	ハ:大和商事リースから折りたたみハウスの受託生産開始
自:「スバルECVTシステム」日産自動車に供給開始	12月	
	1992年 (平成4年)	
自:ニュービッグホーン「ハンドリング・バイ・ロータス」発売	2月	
自:ヴィヴィオ新発売	3月	車:JR東日本向気動車(キハ100、110)76両を完納
自:4WD車生産累計300万台を達成	4月	エ:スイーバ「FUJI-HITER」シリーズを発売(ドイツ・ハコ社のOEM)
企:川合社長、在東京サイプラス共和国(キプロス)名誉総領事に就任	5月	
企:川合社長、航空宇宙工業会会長に就任		
自:塗装済バンパーのリサイクル部品を使用し、実生産を開始		
自:スバル車生産累計1,000万台を達成		
企:村田発條と共同出資で複合材部品生産会社「エーシーエム栃木㈱」を設立	6月	
	7月	航:宇都宮第二工場41棟竣工、ボーイング777生産開始
		エ:清掃ロボットをJR東日本へ納入
企:中期経営計画発表	8月	
自:「スバルテクニカルセンター広島」を開設	10月	産:スバルジェネレーターSGVシリーズ(OHVエンジン搭載)を発売
企:中国・貴州航空工業総公司と軽乗用車国産化の技術供与契約に調印		車:JR北海道へ振子式特急ディーゼルカー試作1両納入
自:タイ国へ完成車輸出を開始	11月	
自:インプレッサシリーズ発売		
自:サンバーディアスシリーズのエンジン部品・インテークマニホールドが「プラスチック大賞」を受賞	12月	航:半田工場稼働開始

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
	1993年 (平成5年)	
企: 全国運転代行事業協会と運転代行専用車両を開発	1月	
企: 「地球環境保護に関する取り組み計画」を策定	3月	航: ボーイング767、500号機納入達成
自: ヴィヴィオ、WRC・サファリラーに初挑戦、史上初の完走、クラス優勝・準優勝を獲得	4月	
企: サンバーの電気自動車を開発、「第8回低公害フェア」に出展	5月	
自: 3ウェイコンバーチブル「スバルT-TOP」3千台限定発売		
	7月	航: ボーイング777中央翼、初号機納入
自: レガシィ、ニュージーランドラリーでWRC初優勝	8月	
自: NEWレガシィ世界最速ワゴン記録達成。1km区間=249.981km/H(FIA、ACCUS公認)	9月	
自: NEWレガシィシリーズを発売	10月	工: 高層ビル用ごみ分別搬送システム「ヒュー・ストーン」の実証プラントを武蔵野社宅内に完成、運用試験を開始 産: 櫛マキタ向けに刈払い機の供給開始
企: ロビン・アメリカ設立	11月	
自: サンバー「ディアス・クラシック」を発売	12月	
	1994年 (平成6年)	
自: インプレッサに「STiバージョン」を設定	1月	
自: EJ系エンジン生産累計100万台達成		
	2月	産: ロビンエンジンEH30型、EH34型が米国加州大気資源局(CARB)の排気基準値をクリア、認証を得る 産: ポラリス向エンジン生産累計100万台達成
自: ジャスティの国内向け生産打ち切り	3月	バ: 小型(マイクロ)バス新型式認定取得
自: 日産自動車よりADバン(OEM供給を受け、新型レオーネバンとして発売)	4月	産: ポラリス製パーソナルウォータークラフトを発売
自: 「ロール圧延法」による自動車用塗装バンパーの新しい塗膜剥離技術を開発		
自: サンバーの生産を桐生工業(株)から本工場へ集約	5月	産: 伊・ユーロシステム社製草刈機の輸入を開始
企: ロビンマニファクチャリングUSAを設立	9月	
自: レガシィシリーズに2.5ℓ「250T」を追加	10月	
自: インプレッサ「WRXtype RA STi」を発売	11月	
企: 日本信販と提携し「スバルカード」を導入	12月	バ: 低公害CNGバスを東京都、横浜市、川崎市へ納入
自: スバル、初めて年間を通じてWRC全戦参加、マニファクチャラーズ・タイトル2位(カルロス・サインツ)を獲得(共に過去最高位)		
	1995年 (平成7年)	
企: 阪神大震災被災地に対する支援として、コンテナハウスと発電機を神戸市へ提供	1月	
企: 北海道中川郡美深町にて北海道試験場(テストコース)起工式を実施		
自: 2ドアクーペインプレッサ「リトナ」発売	2月	産: 埼玉製作所工場棟竣工、4月より稼働開始 航: 救難捜索機U-125A初号機を航空自衛隊に納入
企: シンガポール富士重工業を設立		
自: ヴィヴィオバンに3速AT車を発売	3月	航: T-5用フライトシミュレータを海上自衛隊に納入 産: ロビンマニファクチャリングUSA生産開始
自: 初の電気自動車「サンバーEV」発売	4月	
自: 軽乗用車(含ボンネットバン)生産累計300万台達成	6月	工: ゴミ収集管理の効率化を目的とした「フジマイティーコンテナ計量システム」発売
自: 新塗膜保護技術を開発、本格的に導入を開始		
自: レガシィ「グランドワゴン」発売	8月	
自: マジャー・スズキ製ジャスティを欧州市場に導入	9月	工: 川崎市にゴミ輸送用コンテナとコンテナ輸送車両を納入、同市で10月よりゴミの貨物輸送を全国で初めて実施
企: 埼玉製作所の研究・開発棟完成、同製作所への移転完了		
企: 大宮製作所の移転に伴い、大宮地区を「大宮事業所」と名称変更	10月	車: JR北海道に振り式特急気動車(キハ283形)を開発納入
自: インプレッサスポーツワゴン「グラベルEX」を発売		
自: ヴィヴィオ「ピストロ」発売	11月	
自: スバル、WRCにおいてマニファクチャラーズ・タイトルとドライバーズ・タイトル(コリン・マクレー)を獲得	12月	工: フジマイティーにイオン電着を用いた高品位塗装導入 航: 富士ベル205B型ヘリコプター運輸省航空局の型式証明を取得

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
<p>自:「ロール圧延法」を実用化し、バンパーからバンパーへのリサイクルを開始</p> <p>自:福祉車両サンバー「トランスケア」発売</p> <p>企:大宮製作所跡地の一部を大宮市土地開発公社及び住都公団へ売却</p> <p>自:航空宇宙技術を応用したモータースポーツ用品を発売</p> <p>企:独自のシステムで市場からのバンパー回収を開始</p> <p>企:環境システム事業の新会社「㈱富士重工環境システムズ」設立</p> <p>企:ホームページを開設</p> <p>企:群馬製作所矢島工場第4塗装課にて火災、3,675㎡を焼失</p> <p>自:キャンピング機能を搭載した特装车ドミンゴ「アラジン」新発売</p> <p>自:「スバルECVT」の生産累計100万台達成</p> <p>企:川合勇社長が代表取締役会長、田中毅副社長が代表取締役社長に就任</p> <p>自:4月に焼失した群馬製作所矢島工場第4塗装課を復旧、第5塗装課と改称しラインオフ式を実施</p> <p>自:フォレスター、米国インディアナ・モータースピードウェイで24時間世界速度記録(ハーモントロフィー)に挑戦、新記録=平均速度180.082km/hを樹立</p> <p>自:スバル、WRCにおいてマニファクチャラーズ・タイトルを2年連続で獲得</p> <p>自:アルシオーネSVX生産終了</p>	<p>1996年 (平成8年)</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航:高性能大型無人ヘリ「RPH2」初飛行に成功</p> <p>航:ボーイング777長距離型機の中央翼初号機出荷</p> <p>航:独自開発の新型メインローターシステム(FBR)の初飛行に成功</p> <p>航:当社設計製造のALFLEX(小型自動着陸実験機)、豪での初飛行、自動着陸に成功</p> <p>航:ボーイング737-700用エレベータ量産初号機を納入</p> <p>航:ボーイング社より日本メーカーで初めて「サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」を受賞(主構造部門)</p> <p>航:米国RAC社と「ホーカー・ホライゾン」の開発参画について契約</p>
<p>自:レガシイ国内生産累計100万台達成</p> <p>企:タイに販売会社「スバルタイランド」を設立</p> <p>自:乗用進化型SUV「フォレスター」新発売</p> <p>自:大阪府泉大津市に「スバル関西整備センター」を建設するため地鎮祭を実施</p> <p>自:トランスケアシリーズを発売し、ウイングステップ、ウイングシート、ストレッチャーを新展開</p> <p>自:7速マニュアルシフトモード付フル電子制御無段変速機「スポーツシフトECVT」を開発、搭載車を発売</p> <p>企:輸送機工業とトレーラ事業を移管、統合する契約を締結</p> <p>自:レガシイランカスターシリーズを発売</p> <p>自:関東全域で使用済みバンパーの回収を実施</p> <p>企:リコール問題で運輸省より行政処分を受ける</p> <p>自:台湾・大慶汽車工業股份有限公司でインプレッサの生産を開始</p> <p>自:サンバーのECVTを3ATに変更</p> <p>自:トランスケアシリーズにウイングシートリフトタイプを追加</p> <p>自:スバル、WRCにおいて日本車で初めてマニファクチャラーズ・タイトルを3年連続で獲得</p>	<p>1997年 (平成9年)</p> <p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>8月</p> <p>9月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航:ピギーバッグ小型衛星の試験用供試体を宇宙開発事業団へ納入</p> <p>工:オギハラ・エコロジー(株)など3社と焼却灰溶融資源化プラントを共同開発</p> <p>航:航空機模擬標的機の初号機を防衛庁に納入</p> <p>航:遠隔操縦観測システム、防衛庁装備審査会で開発完了承認</p> <p>工:高層ビルごみ分別搬送システム「ヒュー・ストン」をJR東日本本社ビルに納入</p> <p>産:ロビンマニファクチャリングUSAにてEH65D型エンジンの生産開始</p> <p>航:スバル・ドライビング・シミュレータを東京モーターショーに出品</p> <p>航:多用途小型無人機の試験用機体を防衛庁に納入</p>

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
	1998年 (平成10年)	
企: ポルシェ車の日本国内での販売に協力することを発表	1月	
企: 使用済み自動車リサイクルイニシアティブ・自主行動計画を策定	2月	
自: インプレッサ「22B-STi Version」発売	3月	
企: 自動車の部品センター機能を桐生工業のスパル太田部品工場に集約	4月	航: ホーカー・ホライゾンの主翼の組立開始
自: 新世紀レガシィ、世界最速ワゴン記録更新、1km区間=270.532km/h(FIA、ACCUS公認)		
	5月	ハ: 新型切妻ハウス発売
企: 産業機器事業の欧州販売会社「ロビン・ヨーロッパ」を設立	6月	航: 新航空法に対応する事業認定を取得
企: 環境パンフレット「人と社会と地球の調和を目指して」を発行		
自: 新世紀レガシィ発売		
自: 軽新規格車新コンパクトワゴン「プレオ」発売	10月	エ: 新型「フジマイティLP38型」発売 エ: 新型モートルトラックグッドデザイン賞受賞
企: 代議士に対する贈賄容疑で常勤監査役逮捕	11月	車: JR北海道宗谷線に新型特急気動車(キハ261)納入
企: 同容疑で会長逮捕	12月	バ: ポルボ連節バス10両を納入、幕張地区で運行
自: インプレッサスポーツワゴン「カサブランカ」発売		
自: レガシィB4発売		
自: '98、'99RJCニュー・カー・オブ・ザ・イヤー ダブル受賞		
	1999年 (平成11年)	
自: サンバーフルモデルチェンジ新規格サンバー発売	2月	エ: エレベーター運動清掃ロボットシステムを東京・神田のオフィスビルに納入
企: 旧中島飛行機大宮製作所の大煙突解体に伴い安全祈願祭を実施	3月	産: ボラリス社向けエンジン生産累計200万台達成 航: ホーカー・ホライゾン初号機の主翼をRAC社(レイセオン・エアクラフト・カンパニー)へ納入 航: 栃木子ども科学館にヘリコプター・シミュレータを納入
	6月	
自: 新レオーネバン発売		
自: プレオ「ネスタ」発売		
企: 旧大宮製作所跡地における地下水浄化の概要と計画について発表	7月	車: JR東日本に新型寝台特急「カシオペア」を納入
自: 4WD車生産累計500万台達成		
企: 産業機器事業の中国合弁会社「常州富士常柴羅賓汽油機有限公司」を中国・江蘇省に設立	9月	
自: レガシィランカスターに「ランカスターADA」を追加		
自: 国内5地区(山形、神奈川、東京、大阪、広島)のスパル特約店を統合	10月	
自: 中央スパル自動車(株)を吸収合併し、東京スパル(株)を設立		
自: サンバーに新規格軽乗用ワゴン「ディアスワゴン クラシック」を設定、発売		
企: 米国ゼネラルモーターズ(株)と資本・業務提携	12月	
企: スズキ(株)と業務提携を発表(2000年9月業務提携)		
自: スバル、WRCにおいて年間最多勝を達成		
	2000年 (平成12年)	
自: レガシィB4「BLITZEN」を発売	1月	ハ: 母屋拡張型介護ルーム「やさしい家族」を発売
企: 全国で使用済みバンパーの回収を実施	2月	航: DASH8-400旅客機胴体尾部組立打錠式挙行
企: 国内関係会社5社を金融事業と不動産事業の2社に集約	3月	車: JR北海道に特急気動車「スーパー宗谷」8両を納入
企: ゼネラルモーターズ(GM)に対する第三者割当による新株式を発行、払込終了(増資後資本金144,428百万円)	4月	
企: 日産自動車(株)と業務提携を解消		
企: 戦略5ヶ年中期経営計画「新TQF21計画」を発表	5月	航: 米国ベルヘリコプターテキストロン社とBA609ティルトローター機の胴体製造下請契約を締結
自: 新開発3.0ℓ水平対向6気筒エンジン搭載の「ランカスター6」を発売		
自: サンバー生産累計300万台達成	7月	バ: 大型観光バスをモデルチェンジ、発売
自: New Ageインプレッサを発売	8月	
企: 「2000環境報告書」を初めて発行	9月	
企: 運輸省への申請手続き上ミスがあり運輸省より警告を受ける		
企: スズキ(株)業務提携		
自: インプレッサSTiシリーズを発売	10月	エ: 「スバル小型風力発電システム」試作機を公開
自: 電気自動車「サンバーEV」を発売	11月	エ: 回転板式塵芥収集車「フジマイティLP0型シリーズ」を発売
	12月	航: 対戦車ヘリコプターAH-1Sの最終号機を納入
自: インプレッサが日本カー・オブ・ザ・イヤー特別賞を受賞		
自: プレオ「ニコット」を発売		

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
	2001年 (平成13年)	
<p>企: 国内関係会社およびスバル特約店の経理業務の集約化を発表</p> <p>自: レガシィツーリングワゴン/B4「BLITZEN 2001model」を発売</p> <p>企: 大和商工(株)の全株を取得</p> <p>企: 自動車製造部門(群馬製作所)でゼロエミッションを達成</p> <p>企: 関係会社の櫛スバル研究所を吸収合併</p> <p>企: 新TQF21計画01ローリングプランを発表</p> <p>自: フィリピンでのGMオートワールドでのスバル車販売開始</p> <p>自: サンバー「訪問介護車」を発売</p>	<p>1月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>9月</p>	<p>航: 航空宇宙技術研究所より、小型超音速ジェット実験機(SSTジェット実験機)の主契約会社として受注</p> <p>航: 米国レイセオン社にて、ホーカーホライズンの初号機がロールアウト</p> <p>産: 中国東風抗州汽車とバス車体への技術給与契約を締結</p> <p>産: ロビン汎用エンジン「EYシリーズ」をモデルチェンジ</p> <p>産: 新型ロビン汎用エンジン「EXシリーズ」を新開発、発表</p> <p>工: 塵芥収集車「フジマイティ」累計生産5万台を達成</p> <p>工: エレベータ連動清掃ロボットシステムを晴海アイランドトリトンスクエアに納入</p>
	2002年 (平成14年)	
<p>自: 北米国際自動車ショーにおいて、北米向けモデル「Baja(バハ)」を発表</p> <p>自: 3.0L水平対向6気筒DOHCエンジンを搭載したレガシィツーリングワゴン「GT30」及びB4「RS30」を発売</p> <p>自: シカゴオートショーにおいてフォレスターのフルモデルチェンジモデルを発表</p> <p>自: レガシィ ツーリングワゴン/B4「BLITZEN2002model」を発売</p> <p>自: フォレスターをフルモデルチェンジ</p> <p>企: 宇都宮製作所ならびに宇都宮車両工場、埼玉製作所でゼロエミッションを達成</p> <p>企: 欧州でのスバル事業を統括する「スバル ヨーロッパ社」を設立</p> <p>自: 台湾ベスバと現地生産協定解消</p> <p>企: 日本電気(株)と「NECラミオンエナジー」を設立(2006.3.解消)</p> <p>企: バス車体、鉄道車両の新規生産を2002年度限りで終了することを発表</p> <p>企: 新中期経営計画「Fuji Dynamic Revolution-1」を発表</p> <p>自: レガシィ B4 「CNG」(天然ガス自動車)開発を発表</p> <p>企: 事業持株会社型社内カンパニー制を導入</p> <p>企: 「環境保全取り組み計画(2002年度～2006年度)」を発表</p> <p>企: 新販売会社「スバル オブ 台湾(SOT)」を立ちあげ</p> <p>自: GM、いすゞ、スズキとともに特定品目の購買に関する共同チームを発足</p> <p>自: レガシィワゴン/B4「BLITZEN6」を発売</p> <p>自: スバルフォレスター「CROSS SPORTS」を発売</p> <p>企: いすゞとスバル・いすゞオートモーティブインクの合弁解消と生産委託契約に正式調印</p> <p>企: 大阪証券取引所および名古屋証券取引所の上場廃止申請</p>	<p>1月</p> <p>2月</p> <p>3月</p> <p>4月</p> <p>5月</p> <p>6月</p> <p>7月</p> <p>8月</p> <p>10月</p> <p>11月</p> <p>12月</p>	<p>航: ボーイングの超高速機ソニック・クルーザーの共同研究に関する覚書に調印</p> <p>工: 有機資源物分別収集車「CVSR」を開発、横浜市有機リサイクル協同組合に納入</p> <p>工: 「有機資源物分別前処理システム」を開発、その実証装置を茨城県つくば市の分離試験場に設置</p> <p>産: ロビン汎用ミニ4サイクルエンジンEH035を新発売</p> <p>航: エアバス社の次世代超大型機A380プログラムに参画し、垂直尾翼の前縁・後縁構造など生産する契約を締結</p> <p>航: 航空自衛隊向け新初等練習機の初飛行に成功</p> <p>航: ボーイング777最新型機の初号機用中央翼を納入</p> <p>産: 塵芥収集車臭気除去装置を開発</p>

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
	2003年 (平成15年)	
企: スバル・いすゞオートモーティブインクを100%子会社化、スバル オブ イン ディアナ オートモーティブ インクに改称(略称: SIA) 自: ジャトコとの共同出資によるCVT事業を設立(2006.9.解消) 自: トヨタとG-BOOKサービスで協力を合意 自: GMインドにシボレーフォレスターを供給	1月 2月 3月	車: 鉄道車両事業を新潟トランスに継承 ハ: 「循環式トイレハウス」を発売 車: カートレーラー事業を輸送機工業へ営業譲渡 航: ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤー賞を受賞 エ: ASR(自動車シュレッダーダスト)前処理分別システムを開発
企: スバルとサーブ 共同開発および販売協力を合意 自: ジュネーブモーターショーにてコンセプトカー「B11S」を発表 自: レガシィをフルモデルチェンジ	4月 5月 6月	航: エアバスA380初号機用部品出荷
企: スバルビジターセンターを矢島工場内に開設 企: コーポレートシンボルを六連星に設定 自: スバル福岡納整センターを新設 自: G3Xジャスティを欧州で発売 自: スバル国内生産累計1500万台を達成 自: レガシィアウトバックを発売 自: スバルブランドメッセージ「Think.Feel.Drive」を設定 自: レガシィが2003-2004日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞 自: 「スバル R2」を発売 自: レガシィ 国内販売累計100万台を達成 自: スバル、WRCにおいてドライバーズ・タイトル(ペター・ソルベルグ)獲得	7月 8月 9月 10月 11月 12月	航: 国内初の小型飛行機による完全自動離着陸飛行実験に成功 航: 米国新市場用小型ジェット機事業に参画
	2004年 (平成16年)	
企: ハウス事業を分社 自: スバルカスタマイズ工房がカスタマイズ事業を開始 自: サーブ9-2Xを群馬製作所で生産開始 企: 関係物流会社を統合 企: 大宮製作所跡地にショッピングセンター『ステラタウン』オープン 自: 中国での販売網構築に着手、現地販売と正式契約 自: スバルとサーブ 新たに新型クロスオーバー車での協業に合意 企: 株式交換により輸送機工業を完全子会社化 自: スバル、日本初開催のWRC「ラリージャパン2004」にて優勝(ドライバー: ペター・ソルベルグ) 自: スバル登録車国内販売累計300万台を達成 企: 新人事制度を管理職に導入 自: スバルR2が2005年次RJCカー・オブ・ザ・イヤー特別賞ベスト軽乗用車を受賞	1月 3月 4月 6月 7月 8月 9月 10月 11月	航: 陸上自衛隊向け遠隔操縦観測システムの飛行試験に成功 ハ: ハウス事業を富士ハウレンゾへ営業譲渡し分社化 エ: 新明和工業㈱と次世代塵芥収集車を共同開発 産: 独ディーゼルエンジンメーカーと販売協力合意 航: ボーイング777-200LR初号機用の中央翼を納入
	2005年 (平成17年)	
企: 東京都八王子市に「スバルアカデミー」を開設 自: 「スバル R1」を発売 自: スバル車の国内新車販売累計台数1,000万台を達成 自: レガシィが世界累計生産台数300万台を達成 自: 米国で「B9トライベッカ」を発売 企: 東京電力と業務用電気自動車の共同開発を開始 企: GMとの提携関係を解消、トヨタ自動車と業務提携を結ぶことで基本合意	1月 3月 4月 5月 6月 9月 10月 12月	航: 次期固定翼哨戒機の中央翼を初出荷 エ: 新型塵芥収集車「フジマイティーLP71型シリーズ」の販売を開始 航: ボーイング787プログラムに参画し、中央翼などを担当する契約に調印 航: 次期輸送機の主翼を初納入 航: 次期哨戒機の主翼を初納入 エ: 2000kW大型風力発電システム開発、試作機を設置

主要事項・自動車部門	年月日	部門別主要事項
	2006年 (平成18年)	
企: 45才以上の社員約700名の希望退職を実施	1月	
自: メキシコ市場へスバル車導入、現地販売網設立		
自: スバル フォレスター累計生産台数100万台を達成	2月	
企: トヨタ自動車㈱と業務提携	3月	
自: 国内5地区(北海道、中部、四国、北九州、南九州)のスバル特約店を統合	4月	航: 陸上自衛隊向け戦闘ヘリコプターAH-64Dの初号機を納入 産: 関東地域と中部地域のロビン特約店2社を吸収合併し、全国規模の販売会社「富士重工産機販売」を設立 航: 愛知県半田市にボーイング787向け中央翼組立工場・複合材部品製造工場が完成
自: 水平対向2.5ℓターボエンジンが「インターナショナル・エンジン・オブ・ザ・イヤー2006」の部門賞を受賞	5月	
企: 富士機械㈱を100%子会社化		
企: 竹中恭二社長が取締役相談役、森郁夫常務執行役員が代表取締役社長に就任	6月	航: 小型ビジネスジェット機「エクリプス500」の量産主翼を初納入
自: 新型軽乗用車「スバル ステラ」を発売		
自: 国内スバル販売会社でのボルボ車販売15拠点をヤナセグループに営業譲渡		
自: 東京電力に電気自動車「RIe」試作車10台を納入		
自: ウクライナでスバル車の販売を本格展開	7月	
自: 和歌山スバル自動車㈱と大阪スバル㈱を統合	10月	
自: 電気自動車開発で、東京電力、NECラミリアンエナジーと「平成18年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞	11月	工: 大型風力発電システムが「新エネ大賞 資源エネルギー庁長官賞」を受賞
企: 第33回社会人野球日本選手権大会優勝	12月	産: スポーツカート用エンジン「スバルKX21」を新発売
企: ロボットによるビルの清掃システムが評価され、住友商事と共同で「今年のロボット」大賞2006(経済産業大臣賞)を受賞		
	2007年 (平成19年)	
	1月	航: ボーイング787の中央翼を初出荷 産: スバル充電式草刈機「eカッターPRO」を新発売
企: 欧州市場向け新型小型乗用車のOEM契約をダイハツと締結	2月	
企: 2007-2010新中期経営計画を策定		
企: SIAでトヨタ車(カムリ)の生産開始	4月	
企: 富士ロビン株式をマキタへ売却	5月	工: 新型塵芥収集車「フジマイティールP81型シリーズ」を販売開始
企: 住友商事・CIMCと環境保護車輜及び環境保護設備・機器の製造販売に関する合弁会社を中国に設立	6月	
自: インプレッサシリーズをフルモデルチェンジ		
	7月	工: 屋外型清掃ロボットシステムを実用化
自: 「スバル ジャスティ」を欧州で発売	9月	
自: インプレッサBEAMS EDITIONを発売	11月	
自: フォレスターをフルモデルチェンジ	12月	産: ロビン汎用エンジン「EXシリーズ」に2機種を追加

### 3 富士重工業株式会社から株式会社SUBARUへ

企…企業関連  
自…自動車部門  
航…航空宇宙カンパニー

産…産業機器カンパニー  
エ…エコテクノロジーカンパニー

年月	主要事項
2008年 (平成20年)	<p>2月 航:ボーイング777フライター初号機用の中央翼を出荷 自:水平対向ディーゼルエンジンをレガシィとアウトバックに搭載し、欧州市場へ導入</p> <p>3月 企:スバル生誕50周年 航:海上自衛隊初等練習機T-5の製造を再開</p> <p>4月 企:トヨタ・ダイハツ・富士重、開発・生産における新たな協力関係に合意 自:インプレッサが「自動車アセスメントグランプリ」を受賞</p> <p>5月 自:先進運転支援システム「アイサイト」を搭載したレガシィシリーズを発売</p> <p>6月 自:新型車「スバルEXIGA」を発売 自:「スバル プラグイン ステラ コンセプト」を開発</p> <p>10月 自:インプレッサ4ドアモデル「アネシス」を発売</p> <p>11月 自:「スバル デックス」を国内で発売</p> <p>12月 自:世界ラリー選手権ワークス活動を終了</p>
2009年 (平成21年)	<p>1月 自:「水平対向ディーゼルエンジン」が第6回新機械振興賞「機械振興協会会長賞」を受賞 産:エンジン式刈払機「スバル ロビンカッター」を新発売 自:国内のスバル販売会社を統括会社体制へ完全移行</p> <p>5月 自:新型スバル レガシィ シリーズを発売</p> <p>6月 自:「スバル プラグイン ステラ」を発表</p> <p>9月 自:スバル全モデルが米国IIHSの2009年安全評価で最高評価である「トップセイフティピック」を獲得 自:ディアスワゴン(Dias Wagon)を発売</p> <p>11月 自:スバル全モデルが米国IIHSの最新2010年安全評価で最高評価であるトップセイフティピックを獲得 エ:自律式走行ロボットの走行プログラム自動生成システムを開発 エ:農業用ロボットシステムを開発、サービスロボット市場を拡大へ エ:住友商事と富士重工業、オフィスエリア清掃ロボットシステムを共同開発</p>
2010年 (平成22年)	<p>3月 企:(株)イチタンを100%子会社化 エ:サービスエリア清掃ロボットシステムを共同開発</p> <p>4月 エ:電動式塵芥収集車「フジマイティーエレクトラ」を新発売 自:新型軽自動車 スバル ルクラを発売 自:プレオシリーズをフルモデルチェンジ 自:レガシィが「自動車アセスメントグランプリ'09/'10」を受賞 自:運転支援範囲を大幅に拡大した先進運転支援システム「新型アイサイト(Ver.2)」を開発</p> <p>6月 自:「インプレッサXV」を発売</p> <p>7月 エ:SUBARU80/2.0 風力発電システムが国内初の港湾外洋上風力発電施設で本格稼働開始</p> <p>9月 自:新世代ボクサーエンジンを開発</p> <p>10月 自:先進運転支援システム「アイサイト(ver.2)」が日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤーを受賞 自:群馬製作所開設50周年</p> <p>11月 自:新型コンパクトカー スバル トレジアを発売 産:スバル汎用エンジン「EA-Vシリーズ」を新開発 産:ランマー専用エンジン「ER12」を新開発</p> <p>12月 自:WRX STI 4ドア A-Lineが「オートカラーアワード2011 インテリア部門賞」を受賞 自:インプレッサ「WRX STI tS」・「WRX STI spec C」を発売 自:スバル全モデルが米国IIHSの最新2011年安全評価で最高評価である「トップセイフティピック」を獲得</p>

年月	主要事項
2011年 (平成23年)	<p>1月 工: SUBARU80/2.0 風力発電システム11基が御前崎風力発電所で本格稼働開始</p> <p>3月 自: レガシィ「アイサイト(ver.2)」搭載モデルが販売台数1万台を達成</p> <p>4月 自: 国内スバル特約店の全店が「エコアクション21」の認証取得</p> <p>5月 自: 新型軽乗用車 スバル ステラを発売</p> <p>6月 航: 富士重工業と東大、機体破損後の航空機の自動飛行実験に成功 企: 森郁夫代表取締役社長が代表取締役会長、吉永泰之取締役兼専務執行役員が代表取締役社長に就任</p> <p>7月 企: 2011-2015中期経営計画「Motion-V」を策定 自: スバル車 米国生産累計台数 200万台を達成</p> <p>9月 自: 北米工場を受託生産車 新型カマリのラインオフ式を実施</p> <p>11月 自: 新型インプレッサを発表</p> <p>12月 航: ボーイング777中央翼の生産累計機数1,000機を達成 自: レガシィ アウトバックが「オートカラーアワード2012 インテリア部門賞」を受賞 自: スバル全モデルが米国IIHSの安全評価で最高評価である「トップセイフティピック」を獲得 自: 自動車板金補修部品生産を桐生工業に移管</p>
2012年 (平成24年)	<p>1月 産: スバル汎用エンジン「EX シリーズ」累計生産台数300万台を達成</p> <p>2月 自: 新型車「SUBARU BRZ」を発表 自: AWD 発売40周年 自: 群馬製作所大泉工場 開設30周年</p> <p>3月 自: 軽自動車の生産を終了～軽自動車生産工場は登録車生産工場へ転換 自: SUBARU BRZ/TOYOTA 86のラインオフ式を実施 自: 米国生産拠点(SIA) 25周年</p> <p>4月 自: 「ぶつからない車を目指した先進運転支援システムの開発」が文部科学大臣科学技術賞受賞 航: 「ボーイング・サプライヤー・オブ・ザ・イヤー」を受賞</p> <p>6月 自: SIA 米国の自動車生産工場として初のISO 50001認証を取得</p> <p>7月 工: 風力発電事業を株式会社日立製作所へ事業譲渡 航: ボーイング787向け 中央翼組み立てラインを増設</p> <p>9月 航: ボーイング787の中央翼生産累計機数100機を達成 自: 新型 スバル インプレッサ XV を発表</p> <p>10月 自: インプレッサ G4&amp;SPORTとインプレッサ XVがグッドデザイン賞を受賞 自: 新型スバル XV が米国IIHS の安全評価で 最高評価である「トップセイフティピック」を獲得</p> <p>11月 自: 新型スバル フォレスターを発表 産: 産業機器製品の中国販売会社 開所式を実施 自: インプレッサが「新・安全性能総合評価ファイブスター賞」を受賞 自: 米国累計販売台数が600万台を達成 自: 「SUBARU BRZ」が 2012-2013 日本カー・オブ・ザ・イヤー 実行委員会特別賞を受賞 自: 新型スバル フォレスターが欧州の安全性能総合評価で最高評価の5つ星を獲得</p> <p>12月 自: 新型軽乗用車 スバル プレオ プラスを発表 産: 汎用エンジン 累計生産台数3,000万台を達成 産: 農機用スバル汎用エンジン「EK30」を新開発 自: インプレッサ XVが「オートカラーアワード2013」でグランプリを初受賞 自: マレーシアでSUBARU XVの KD生産をスタート 工: 塵芥収集車「フジマイティー」の生産を終了 自: 全モデルが米国IIHSの2013年安全評価で最高評価である「トップセイフティピック」を獲得</p>
2013年 (平成25年)	<p>1月 自: アイサイトが日立オートモティブシステムズ 第10回新機械振興賞「経済産業大臣賞」を受賞 産: 国内向けスバルポンプ「SWPシリーズ」を新発売 工: 塵芥収集車事業を新明和工業株式会社へ事業譲渡</p> <p>3月 自: 豪州累計販売台数が70万台を達成 自: SUBARU XV HYBRIDを発表 (ニューヨーク国際自動車ショー) ※国内発売は6月 工: エコテクノロジーカンパニー廃止</p> <p>4月 自: 先進運転支援システム「アイサイト(ver.2)」搭載モデルが国内販売台数10万台を達成</p> <p>5月 自: レガシィが2012年度「新・安全性能総合評価ファイブスター賞」を受賞 自: フォレスターが米国IIHSの2013年安全評価で最高評価である「トップセイフティピック+」を獲得</p> <p>7月 企: 創立60周年</p> <p>9月 企: 中国でのスバル車販売強化体制を構築 自: レガシィ、アウトバックが米国IIHSの衝突回避性能評価で最高評価である「superior」を獲得</p> <p>10月 自: 次世代「アイサイト」を発表</p> <p>11月 自: 新型「WRX」を発表 (LAオートショー)</p> <p>12月 自: 基準が強化された米国IIHSの2014年安全評価で「トップセイフティピック+」を3車種が獲得</p>

年月	主要事項
2014年 (平成26年)	
1月	<p>企: スバル車 国内生産台数2,000万台を達成</p> <p>自: 新型「WRX STI」を発表 (北米国際自動車ショー)</p>
2月	<p>自: 新型「レガシィ」を発表 (シカゴオートショー)</p>
4月	<p>産: スバルインバーター発機「SGi18」を新発売</p> <p>自: 新型「レヴォーグ」を発表 (2013年10月東京モーターショー) ※発売は6月</p> <p>自: 新型「アウトバック」を発表 (北米国際自動車ショー)</p>
5月	<p>企: 新中期経営ビジョン「際立とう2020 (Prominence 2020)」を策定</p> <p>自: 新型WRX、WRX STIが米国IIHSの2014年安全評価で「トップセイフティピック(TSP)」を受賞</p>
6月	<p>航: 次世代大型旅客機ボーイング777Xの開発・量産参画へ覚書</p>
7月	<p>自: BRZが米国IIHSの2014年安全評価で「トップセイフティピック(TSP)」を受賞</p>
8月	<p>企: 本社、渋谷区恵比寿に移転</p> <p>自: 新型レガシィ、アウトバックが米国IIHSの2014年安全評価で最高評価「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得</p> <p>自: 新型「WRX S4」「WRX STI」を発表</p>
9月	<p>自: 新型「サンパートラック」を発表</p> <p>企: スバルビジターセンター見学者数 100万人達成</p>
10月	<p>自: レヴォーグが2014年度グッドデザイン賞を受賞</p> <p>自: 「アイサイト」を搭載する3車種がJNCAP「先進安全車プラス(ASV+)」に選定</p>
11月	<p>自: 運転支援システム「アイサイト」を欧州市場へ初展開</p> <p>自: 2015年型インプレッサが米国IIHSの2014年安全評価で最高評価「TSP+」を獲得</p>
12月	<p>自: レガシィ アウトバック/B4が最高評価のJNCAP「先進安全車プラス(ASV+)」に選定</p> <p>自: 新型アウトバックが欧州の2014年安全性能総合評価で最高評価「ファイブスター」を獲得</p> <p>自: WRX搭載水平対向直噴ターボエンジンが米国ワーズ社の「10ベストエンジン」賞を受賞</p> <p>自: 新型「ステラ」を発売</p> <p>自: 米国IIHSの2015年安全評価で「トップセイフティピック(TSP)+」を5車種が獲得</p>
2015年 (平成27年)	
1月	<p>自: インプレッサ/SUBARU XVが最高評価のJNCAP「先進安全車プラス(ASV+)」に選定</p>
2月	<p>企: 水平対向エンジン生産累計1,500万台を達成</p>
4月	<p>自: 新型「CROSSOVER 7(クロスオーバーセブン)」を発売</p>
5月	<p>自: スバル 4車種が2014年度JNCAP「新・安全性能総合評価 ファイブスター賞」を受賞</p> <p>自: WRX STIがニュルブルクリンク24時間耐久レースでクラス優勝</p> <p>自: 「アイサイト」を搭載するCROSSOVER 7が予防安全性能アセスメントで最高ランクを獲得</p>
6月	<p>自: 新型「インプレッサ SPORT HYBRID」を発表</p>
7月	<p>自: 「アイサイト」を搭載するレヴォーグ/WRX S4/レガシィが2015年度予防安全性能アセスメントで最高ランクのJNCAP「先進安全車プラス(ASV+)」を獲得</p> <p>航: 新型旅客機ボーイング777Xの開発・製造に関しボーイング社との正式契約に調印</p>
9月	<p>航: 陸上自衛隊向け新多用途ヘリコプターの開発事業を受注</p> <p>自: 2016年型WRXが米国IIHSの2015年安全評価で最高評価「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得</p> <p>自: レガシィアウトバック/B4が2015年度グッドデザイン賞を受賞</p>
10月	<p>産: 産業機器カンパニー埼玉製作所 開設20周年</p> <p>自: 運転支援システム「アイサイト」が2015年度グッドデザイン賞金賞を受賞</p>
11月	<p>企: 「コーポレートガバナンスガイドライン」を制定</p>
12月	<p>自: 米国IIHSの2016年安全評価で「トップセイフティピック(TSP)+」を6車種が獲得</p> <p>自: WRX搭載水平対向直噴ターボ「DIT」エンジンが米国ワーズ社の「10ベストエンジン」賞を2年連続受賞</p> <p>自: 「アイサイト」を搭載するインプレッサ/SUBARU XVが2015年度予防安全性能アセスメントで最高ランクのJNCAP「先進安全車プラス(ASV+)」を獲得</p>

年月	主要事項
2016年 (平成28年)	
1月	自:「アイサイト」を搭載するフォレスターが2015年度予防安全性能アセスメントで最高ランクのJNCAP「先進安全車プラス(ASV+)」を獲得 自:「アイサイト」搭載車の事故件数調査結果(搭載車は非搭載車比、約6割減)を発表
2月	産:スバル汎用エンジン「EXシリーズ」をモデルチェンジ 自:マレーシアでフォレスターのKD生産を開始
3月	自:AWD車の累計生産台数1,500万台を達成 自:次世代プラットフォーム「SUBARU GLOBAL PLATFORM(スバルグローバルプラットフォーム)」を初公開 自:新型「インプレッサ」をニューヨーク国際自動車ショーにて世界初公開
4月	企:日本IBMと高度運転支援システム分野での協業を開始 航:ボーイング777X向け中央翼組立工場が完成
5月	自:水平対向エンジン発売50周年 自:SIAでのトヨタ カムリ受託生産を終了 自:WRX STIがニュルブルクリンク24時間レースでクラス優勝
8月	自:米国生産累計台数300万台を達成 企:日本政策投資銀行の環境格付において最高ランクを初取得 自:「スバル360-K111型」が日本機械学会2016年度「機械遺産」に認定 自:レヴォーグが欧州の2016年安全性能総合評価で最高評価「ファイブスター」を獲得
10月	自:新型「インプレッサ」を発表
11月	自:米国でのインプレッサ生産を開始 企:産業機器事業の2017年9月末終了を決定 自:新型「ジャスティ」を発表 自:運転支援システム アイサイトを中国市場へ初展開 企:環境省「エコアクション21/バリューチェーンモデル事業」を導入
12月	自:「アイサイト」を搭載する新型インプレッサ、レガシィ、フォレスター、レヴォーグ/WRX S4が2016年度予防安全性能アセスメントで最高ランクを獲得 自:新型インプレッサSPORT/G4が「2016-2017日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞 自:新型「シフォン」を発売 自:基準が強化された米国IIHSの2017年安全評価でアイサイトを装着した2017年型レガシィ、アウトバック、フォレスターが「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得 自:運転支援システム「アイサイト」搭載モデルが、世界累計販売台数100万台を達成
2017年 (平成29年)	
1月	自:米国、カナダ、豪州の2016年暦年販売が過去最高、米国は8年連続で過去最高を更新
2月	自:2017年型インプレッサが米国IIHSの2017年安全評価で最高評価「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得 企:タンチョン・グループ傘下のTC Manufacturing and Assembly (Thailand) Co., Ltd.と合弁会社「Tan Chong Subaru Automotive (Thailand) Co., Ltd.」を設立
3月	自:運転支援システム「アイサイト」搭載モデルが、国内累計販売台数50万台を達成
4月	企:富士重工業株式会社が「株式会社SUBARU」に社名変更を実施 自:新型「SUBARU XV」を発表 自:「インプレッサSPORT/G4」・「SUBARU XV」が2016年度自動車アセスメント「衝突安全性能評価大賞」を受賞し、衝突安全性能評価で過去最高の得点を獲得 自:北米市場専用新型3列SUVの名称を「ASCENT(アセント)」に決定 自:インプレッサが米国Wards社の「10ベストインテリア」賞を受賞
5月	自:新型「プレオ プラス」を発売
6月	自:「アイサイト」を大幅進化させ「ツーリングアシスト」を発表 企:自然環境保全「SUBARUの森」活動をスタート
9月	企:汎用エンジン・発電機等の生産・販売を終了
10月	自:2018年型SUBARU XV、WRXが米国IIHSの2017年安全評価で最高評価「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得 自:北海道・美深試験場の「高度運転支援技術テストコース」完成 自:WRX STI特別仕様車「S208」を450台限定発売 企:完成検査に係る不適切事項を公表
11月	自:北米市場専用新型3列SUV「ASCENT(アセント)」を世界初公開 自:「インプレッサ」・「SUBARU XV」が欧州の2017年安全性能総合評価で最高評価「ファイブスター」を獲得
12月	自:SUBARU6車種が米国IIHSの2018年安全評価で「トップセイフティピック(TSP)+」を獲得 企:完成検査に係る不適切事項について国土交通省に報告書を提出

年月	主要事項
2018年 (平成30年)	<p>1月 自: SUBARU XV、インプレッサが2017年ユーロNCAPにおいてベスト・イン・クラス・セーフティ賞を受賞 航: 宇都宮製作所南工場内に新多用途ヘリコプター用整備工場が完成</p> <p>2月 航: ボーイング777X型機の初号機中央翼が完成</p> <p>3月 自: 新型「フォレスター」を世界初公開</p> <p>5月 自: 新型3列SUV「ASCENT(アセント)」の米国生産を開始 自: WRX STIがニュルブルクリンク24時間レースでクラス優勝</p> <p>6月 自: 新型「フォレスター」を発表 ハイブリッドエンジン「e-BOXER」を搭載 企: 吉永泰之代表取締役社長が取締役会長、中村知美専務執行役員が代表取締役社長に就任</p> <p>7月 企: SBIインベストメントと共同でプライベートファンド「SUBARU-SBI Innovation Fund」を設立 企: 新中期経営ビジョン「STEP」を策定 航: ベル・ヘリコプター・テキストロン社と「SUBARU BELL 412EPX」型機での事業協力を発表 企: 北海道美深町と森林保全活動等の具体化に関する協定書を締結</p> <p>9月 企: 完成検査に係る不適切事項について国土交通省に徹底調査報告書を提出</p> <p>10月 自: 新型「フォレスター」が2018年度グッドデザイン賞を受賞 航: 「航空機搭載型小型赤外線センサシステムインテグレーションの研究試作」で、飛行試験機の初飛行に成功</p> <p>11月 企: 完成検査に係る不適切事項について再発防止に関する勧告を国土交通省から受領 自: SUBARU初のプラグインハイブリッド車「CROSSTREK HYBRID(クロストレック ハイブリッド)」を米国で発表 企: 大泉工場に国内最大級の自家消費型の太陽光発電設備を導入 自: 新型フォレスターがJNCAP予防安全性能アセスメントで最高ランク(ASV+++)を獲得</p> <p>12月 航: 無人航空機に搭載した衝突回避システムの探知性能試験を世界で初めて新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と共同で実施 企: 完成検査に係る不適切事項について国土交通省が過料適用の通知を发出 自: 米国仕様車7車種がIIHSの2019年安全評価で「トップセーフティピックプラス(TSP+)」を獲得 航: 陸上自衛隊新多用途ヘリコプター試作機の飛行試験を開始</p>
2019年 (平成31年/ 令和元年)	<p>1月 自: STIが Sシリーズ初の米国市場向けモデル「S209」を発表</p> <p>2月 自: 新型「レガシィ」セダンをシカゴオートショーで世界初公開 航: 陸上自衛隊新多用途ヘリコプター試作機を納入</p> <p>3月 自: 「SUBARU VIZIV ADRENALINE CONCEPT」を世界初公開 自: 救急自動通報システム「D-Call Net®」への参画を発表 航: 「SUBARU BELL 412EPX」が警察庁から世界初受注を獲得</p> <p>4月 企: 「品質方針」を改定 企: 北海道美深町の森林環境保全活動に寄付を実施 航: 「航空機搭載型小型赤外線センサシステムインテグレーション の研究試作」において、試作品を納入 自: 新型「アウトバック」を世界初公開</p> <p>5月 自: 「インプレッサ」「SUBARU XV」が2018年度JNCAP予防安全性能評価で最高ランクのASV+++を獲得 自: 「フォレスター」が2018年度JNCAP衝突安全性能評価で最高得点を獲得し「大賞」を受賞</p> <p>6月 企: トヨタとEV専用プラットフォームおよび SUVモデルのEVを共同開発することに合意 企: 群馬県と森林公園整備事業で連携強化 自: WRX STI がニュルブルクリンク24時間レースで2年連続、6度目のクラス優勝 企: MONET Technologies株式会社と資本・業務提携</p> <p>7月 自: 新型「シフォン」を発表 航: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)他と、世界で初めて相対速度100km/hでの無人航空機の衝突回避試験を実施</p> <p>9月 自: STI ギャラリーをリニューアルオープン 企: トヨタと新たな業務資本提携に合意</p> <p>10月 自: 新型「レヴォーグ」プロトタイプを世界初公開</p> <p>12月 自: フォレスターがユーロNCAPの2019年安全性能テストで 最高評価「ファイブスター」を獲得 航: 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)他と、無人航空機が緊急時でも自動的に危険を回避できる技術を実証</p>

年月	主要事項
2020年 (令和2年)	
1月	航: ボーイング787型機中央翼の生産累計機数1,000機を達成 自: フォレスターがユーロNCAPの2019年ベスト・イン・クラス賞を受賞 企: 脱炭素社会の実現に向けて自動車走行時のCO2排出量削減目標を公表(スコープ3)
2月	航: 「SUBARU BELL 412EPX」をシンガポールエアショー2020でアジア初公開 自: 2020年モデルがIIHS安全性評価で9つの賞を獲得
3月	企: 富士重工ハウス株式会社をユアサ商事株式会社に譲渡
4月	企: 「SUBARUグローバルサステナビリティ方針」と「人権方針」を制定 企: 2050年度に「カーボン・ニュートラルを目指す」長期目標を設定(スコープ1、2) 企: 群馬大学と共同研究講座「次世代自動車技術研究講座」を設置
10月	自: 新型「レヴォーグ」を発表
11月	自: 新型「SUBARU BRZ」を世界初公開 航: 長野県へ消防防災ヘリコプター(412EPI)を引き渡し、24年振りの完成機納入
12月	企: AI開発拠点「SUBARU Lab」を渋谷に開設 自: 新型「レヴォーグ」が「2020-2021日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞